

天保九年 二一、〇〇〇弗
明治廿五年 三五〇、〇〇〇弗
七世
昭和十二年 一、〇〇〇、〇〇〇弗
朋治四十四年 九六五、〇〇〇弗
五世
昭和十二年 一、〇〇〇、〇〇〇弗
二、六二〇、〇〇〇弗
大行列沿道のスタンド建築
費は百万弔に上り、戴冠式
大觀艦式は十一萬五千弔計
上された。
以上は英國のみの費用で
あるが、戴冠式奉祝參加の
國から特派される參列五百
費を合算すれば恐らく一万
万弔を超過するであらうと
見られて居る。尙カナダか
らは現役軍人及び大駆隊選
兵二百七十三名が選抜され
て戴冠式に派遣される。シ
リシート州よりは現役將兵二
十名が一行に加はつて渡英
する。

前英帝御新邸へ

【聖ワオルフワング城】前
英帝ワキントン公爵は雨雪
の間に衝いてアベスバツク
御新邸に看かれたが、これ
は至極簡素な御住居で眺望
のい、湖邊の二階建て從來

要は魄くまで正論を以て邇
達し、是非の別を明かにして
其の形氣を超脱して、批評す
る所に言論機關存するだ
けで、それが最も有効である
に領事やハカセの宣傳
難がつて騒ぎ立てる新聞
等一方當事者に依りて
云ふのは全く不都合極まる
事であり、攻撃さる、當人に
につて是れ程迷惑なこと
は無からう

豪華な戴冠式

忠臣蔵で有名な上杉家老、千坂兵部七代の孫で縣令を父に持つ、もと男爵夫人といふ肩書のある女が詐欺を働いて野方署に検舉され、この女は米澤市桂町某の自動車会社役員千坂高範の二〇一バニヤ肺病療養所附屬ナダレット貧困童收容場保母千坂みつ(七五)といふ。

老婆でみつは岡山、石川県知事を勤めた故千坂持範氏の長女で、長じて某男爵家に嫁したが、お嬢様育ちで金運ひが荒く、當時権威退助等の由當華やかなりし頃巨額の資金を提供して男爵家を離縁されてしまった、その後轉々さびしい生活を繰り保婚にまでなり下つたがそれでも一万石城代家老の末系として虚榮心を起し年五月畏りでいた。處が忽ち金に窮り、當時の御印鑑を偽造、能筆のみは各官家から自分

る、その後再びさびしい生活を繰り保婚にまでなり下つたがそれでも一万石城代家老の末系として虚榮心を起し年五月畏りでいた。處が忽ち金に窮り、當時の御印鑑を偽造、能筆のみは各官家から自分

る、この女は米澤市桂町某の自動車会社役員千坂高範の二〇一バニヤ肺病療養所附屬ナダレット貧困童收容場保母千坂みつ(七五)といふ。

あ、世が世なら
もと男爵夫人なれのはて

千阪兵衛七代孫娘



少年團會議 第一回投稿募集

我社の新興味人物短評

例の偽手紙を見せて

「今夜はおそいから泊めて下さい」と言葉巧に

出入り取られて困つて

「私は陸軍中將の未亡人で高貴の方の處へ

白晝強盜にあつて金を奪

現金十圓を借り受けた上

山岸連隊手は幾ら待つても

みつが現れないでの飛逃

署員に訴へ出たと

山岸連隊で「これでも昔

は一万石城代家老のお嬢様

ではないかと巡回中の野方

署員に訴へ出たと

山岸連隊で「これでも昔

は一万石城代家老のお嬢様

